

高齢者施設における感染対策の取り組み例

I 食事・食堂における留意点

- ◎ 人数を少なくし、一方向を向いています。
- ◎ 食事の際には、ソーシャルディスタンスを維持し、飛沫感染を防止するため、仕切り等を設置します。



- ◎ 食事等の前後には、手洗いの介助、または手指消毒をこまめに行います。



II 発熱者数グラフの作成について

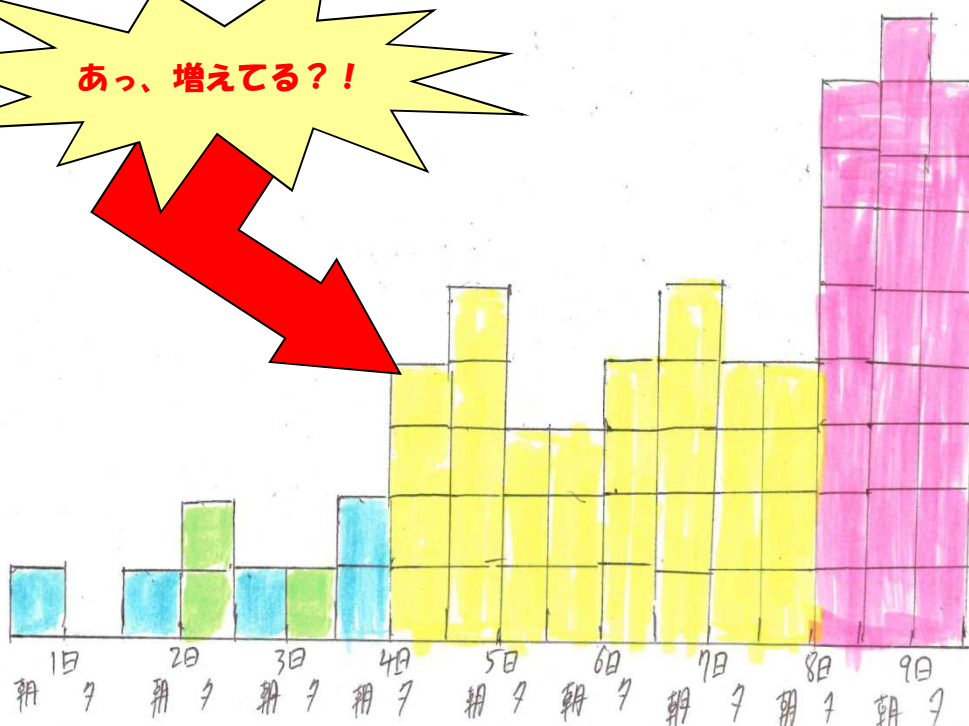
- ◎ 手書きでもPC等による作成でもかまわないので、発熱者の状況を見える化し、施設内における感染まん延の前触れとなる変化、予兆に気づきやすくするため、施設の利用者（入所者等+職員）における発熱者のグラフを作成しましょう。

赤の時点(8~9日目)では感染がまん延してしまっています。

一般的には潜伏期は5日程度とされているので、**黄色時点の感染者**が施設内での感染を広げている可能性があります。

黄色の傾向があらわれた時点で、**施設内の流行の予兆に気づき**、関連機関への相談や感染対策の強化を検討してください。

あっ、増えてる?!



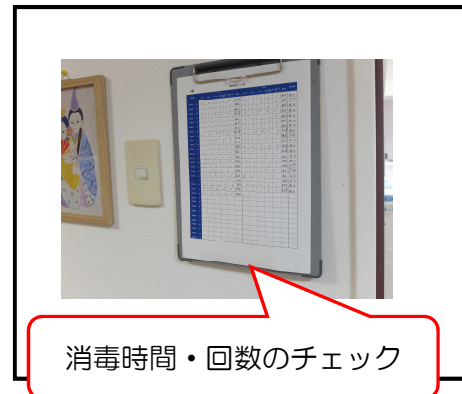
※ 施設内の予兆に気づくには、毎日毎日の地道なグラフ化が重要です。

Ⅲ 消毒等について

◎ 手の触れる機会の多い手すりなど、利用する前後には必ず消毒します。



◎ いつでも手指などの消毒が可能なように、消毒液を携帯しています。



◎ 共用のパソコンがある場合は、キーボードカバーや消毒による感染対策を行います。



IV リハビリテーション、レクリエーション等について

◎ リハやレク等においても、前後に手指消毒、ソーシャルディスタンスの確保、職員・利用者ともマスクの着用を行います。



V 新しい生活様式等に沿った介護について

◎ マスクの着用姿をほめ、着用を促しています。



※口腔ケア時には、フェイスシールド・ガウン等の装着



タブレットを用いたオンライン面会